

初級障がい者スポーツ指導員

2020/3/11

【求められる指導者像】

- 障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。
- プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。
- 地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。
- 中級障がい者スポーツ指導員資格取得をめざすなど自己研鑽を積むようにする。

基準カリキュラム 新旧対照表(初級)

旧カリキュラム(18h以上)

新カリキュラム(21h以上) 2020年4月～

NO	講習科目	時間(h)	時間(h)	授業形態	新規	NO	講習科目	目的	カリキュラムの柱・講義方法
1	ボランティア論	2	1.5	講義	★	1	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。	・スポーツのインテグリティとは(スポーツ・インテグリティを脅かす要因・諸問題) ・スポーツ指導者に求められる資質・能力 ・障がい者スポーツ指導員の役割・心構え・視点 ・ボランティアの魅力、ボランティアの心得、留意点
2	障がい者スポーツの意義と理念	2	1.5	講義		2	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。	・障がい者個人における意義(身体的・精神的効果) ・スポーツ界および社会一般における意義(共生社会の創造、パラリンピックの効果) ・障がい者スポーツの理念(Drグッドマンの考え方や功績、実践上・指導上の理念)
3	全国障害者スポーツ大会の概要	1	1.5	講義		3	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者へのスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ	・全国障害者スポーツ大会の歴史、開催の意義・目的 ・大会競技規則の原則(基準要綱、基本方針など) ・大会実施競技の紹介
4	障がい者との交流	2	1.5以上	実技 実習 可		4	障がいのある人との交流	スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。	・障がい者にとってのスポーツの必要性、意義や価値について <講義方法> ・スポーツ実技体験や大会見学などを活用した実施も可
5	(公財)日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度	1	1.5	講義	★	5	障がい者スポーツ推進の取り組み	資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等へ積極的に関わられるように、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。	・各都道府県・政令指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題(日本障がい者スポーツ協会ビジョンを含む) ・障がい者スポーツ指導者制度の概要 ・地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について ・資格取得後の活動方法と情報入手方法
6	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ	2	1.5	講義		6	障がい者スポーツに関する諸施策	わが国の障がい者福祉施策(障害者手帳を含む)および障がい者スポーツに関する施策(スポーツ基本法やスポーツ基本計画など)について学ぶ。	・障がい者福祉施策とその変遷(障害者基本法・障害者差別解消法・移動支援・身体障害者福祉法・障害者総合支援法) ・障がい者の生活と実態(障がい者数、利用福祉サービス) ・障がい者スポーツに関する施策(スポーツ基本法、スポーツ振興体制、スポーツ基本計画とその振興)
7	安全管理	1	1.5	講義		7	安全管理	スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。(ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など)	・スポーツ指導者の安全配慮義務 ・基礎的な対処法について(救命手当、応急手当、AED、CPR等) ※紹介のみとし実践は中級で実施する ・ヒヤリ・ハット事例(熱中症、転倒、水分補給)
8	障がいの理解とスポーツ	5以上	6以上	講義		8	各障がいの理解	各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。	・身体障がい3h(肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がい、内部障がいを含む) ・知的障がい1.5h(発達障がいを含む)・精神障がい1.5h <講義方法> ・障がい者スポーツ指導員が講師を務め、スポーツ活動現場をベースに内容を構成してもよい
9	障がいに応じたスポーツの工夫・実施	2以上	3以上	実技		9	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方について実技を通して学ぶ。	・各種障がい特性に応じた工夫の基本的な視点と方法 ・実技、実習、演習を通して、用具やルールの工夫や考え方を学ぶ ・障がいの有無に関わらず誰でも参加できるスポーツ・イベント等事業の立案
			1.5	講義 演習	★	10	コミュニケーションスキルの基礎	障がい者スポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。	・よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションのための留意点 ・よい人間関係をつくるために必要なこと ・スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキル ・障がい特性に応じたコミュニケーション方法 ・実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する